



2019地本政策フォーラム開催!



5月18日

5月18日、千葉地本主催「2019政策フォーラム」を開催しました。

冒頭、山口中央執行委員長から挨拶を頂き、その中で変革2027から見える「会社の危機感」とそれに対する私たちの向き合い方について提起を受けました。

第1セッションでは、「身近な問題を改善をするために」をテーマに、2機関から職場の声を基にした政策提言を行いました。続いて第2セッションでは、ジョブローテーションについて地本からの問題提起を行いました。その後の討論では、職場の実態や現場目線での様々な意見が出され、提言をより深めることが出来ました。

働き方改革の名のもとに進められる各種施策に向き合い、職場集会などで、「私達の雇用と安全・働きがいを守るためにはどうすべきか」の意見を出し合い、安心して働ける職場をJR東労組から提言していきましょう!

第1セッション

《発表機関・内容》

① 幕張車両センター分会「働きやすい検修職場をつくるためには」

2018年度から、車両職もJoi・Tabの個人貸与が本格的に開始された。しかし、個人貸与されるのは本体の社員だけである。グループ会社のJR千葉鉄道サービス(CTS)には貸与されないところが共用端末すらないのが現状で、そのために業務にタイムラグなどの問題が発生している。また、本体とCTSの社員間には大きな差が生まれ、最近ではCTSに入社するプロパー社員が、労働条件が低いために離職が止まらないなどの問題も発生している。そうした問題を解決するために提言をおこなう。

② 新小岩電気分会「新小岩現業事務所駐車場出入り口交通事故軽減について」

新小岩現業庁舎は、道路に出る際に総武線の跨線橋の柱が死角となり、右側から進来してくる車が見えず危険である。組合員の命を守るために、安心して働くことができる環境を提言する。新小岩現業庁舎は、道路に出る際に総武線の跨線橋の柱が死角となり、右側から進来してくる車が見えず危険である。組合員の命を守るために、安心して働くことができる環境を提言する。

第2セッション

地本問題提起《新たなジョブローテーションに向かうために》

- ・世の中では「ジョブ型雇用」を目指す動きがある。雇用が流動的にされようとしている。
- ・労働者の立ち位置と情勢を冷静に捉えるべき
- ・人事流動が活発になる反面、そこから漏れれば「雇用危機」があるのではないか。雇用問題として考えることが必要!
- ・ジョブローテーションの施策に対しては、ライフサイクル深度化のたたかいを教訓にすべき!

会社の発展と私達の雇用を守るために施策に向き合おう!